

① 業務改善事例	○
職場ドック該当事例	
② 府民サービス向上事例	

チーム名	アイディアの卵チーム
担当者 【所属名】	山口 崇 (企画総務部 企画振興室) 大西 美巴 (中丹東保健所 企画調整室) 山口 滝平 (企画総務部 総務室) 嵯峨根 正和 (部長付けアセッサー)

タイトル	「アイディアの卵」事業 (この地域の課題を若い職員の手と絆で解決してみよう！)
------	--

アピール ポイント	① 入庁5年目までの若手職員チームで議論 ②中丹地域の府民満足につながる施策をアセッサーの支援により立案 ③局長等の前で提案・発表
--------------	---

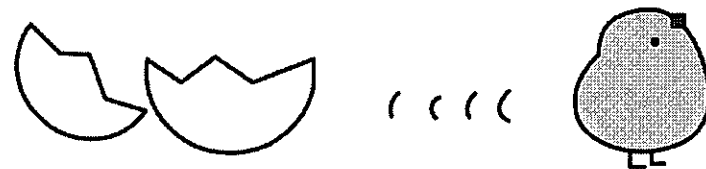
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局の配属5年目までの若手職員(56名)は全職員(353人)の約16%を占める。静岡、高知など本府以外の出身も多い一方、中丹以北の出身は約1/4。 ・ 所属の業務課題等は認識しているが、この地域の全体像を把握する機会がないまま、人事ローテーションで次の配属先に異動。 ・ 4庁舎に配属されるため、お互いの顔を知り、意見交換をする機会も乏しく、仲間意識も育ちにくく、局長、副局長の顔も知らない職員もいる。 ・ 若手職員のメンタルが問題となる中、仲間やアセッサーとコミュニケーションを進めることにより、仲間意識を持って仕事ができる環境づくりが必要
----	---

改善 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若手職員全員を対象とした中丹地域の現状・課題等を学ぶ研修会を実施。 ・ うち、各部推薦の21名の職員から所属・職種を分散し4チームを編成。 ・ 班のテーマを選定し、約3箇月間、調査・研究を会議・メール等で実施。チームにはアセッサーを配置し、議論進行を支援。また、現地調査や専門家の助言が必要な場合は局予算で対応。 ・ 「中丹地域への若者定住促進」、「自然資源を活用したイベントの可能性」「直売所を活かした観光施策」、「若手を核とした中丹のイベント企画・発信後押し事業」の4テーマの施策提案内容を取りまとめ、10月末の報告会で局長、副局長、担当部長等を前で発表し、意見交換の上、講評。
----------	--

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地現場を担当する職員が多く、施策提案などの経験が浅いため、意見交換等に戸惑いも見られたが、リーダー等が決まると積極的に議論が交わされ、アセッサーに助言を求める行動が見受けられた。 ・ 別庁舎の職員との会議の持ち方配慮、違う職場の先輩との意見交換を通じた新しい発想の気づき、更に局内の仲間意識も生まれたとの意見もあり。 ・ 報告会では、提案内容に対し局長等から中丹独自の取組となっていない等、厳しい意見も出されたが、こうしたことも若手職員には貴重な経験となった。 ・ 今後、日頃の意思疎通を通じ、若手職員の絆が繋がり、メンタル減を期待。
----	---

今後の 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 26年度もアイデア卵を継続し、若手職員の意思疎通を活発化。 ・ 提案された施策のうち、実現可能なものを更にベテラン職員や担当室でブラッシュアップし、政策ベンチャーに提案することが目標。
-----------	---

アイディアの卵



～中丹地域の課題を若い職員の方と絆で解決してみよう！～



研修会 (H25.7.3)



提案・発表会 (H25.10.30)

① 入庁5年目までの若手職員で4チームを編成

② この地域の府民満足の向上につながる施策
をアセッサーの支援により立案

③ 局長等へ提案・発表

○中丹局の配属5年目までの若手職員は局全体の
約2割を占める

若手職員：56人
局全体の職員：353人

○そのうち、中丹以北出身者は**約1/4**と少ない

○若手職員全員を対象とした中丹地域の現状・
課題等を学ぶ研修会を実施

○若手職員のうち各部から推薦された職員
21名から4チームを編成、施策提案等を実施

○施策提案に向けた活動など、若手職員には貴重
な経験

○若手職員の絆がつながり、日頃の意思疎通が活
発になりメンタル減を期待！

各チームの
提案・発表テーマ

